

國學院大學學術情報リポジトリ

《研究会記録》令和五年度第二回研究開発推進センター研究会「伊勢神宮 古代・中世移行期論の射程」

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-03-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001511

《研究会記録》

令和五年度第二回研究開発推進センター研究会

「伊勢神宮 古代・中世移行期論の射程」

【木村】 定刻となりましたので、國學院大學研究開発推進センターと神道宗教会との合同での開催となります。「伊勢神宮 古代・中世移行期論の射程」と題した研究会を始めたいと思います。私は、本日の全体司会を担当いたします、研究開発推進センターの木村大樹と申します。よろしくお願いいたします。

本日の主な流れといたしますは、この後、御挨拶がありまして、その後、まず皇學館大学の塩川哲朗先生と、國學院大學の比企貴之先生から、それぞれ四十分ずつ御発題をいただきます。

その後、休憩を挟みまして討議となります。本学の加瀬直弥先生に司会となつていただきまして、まず皇學館大学の小林郁先生から、御発題の二人へのコメントを二十分程度いただきます。そのコメントや、参加者の皆様からの御質問などを踏まえまして、登壇者全員での討議に移るという流れになります。全体で十七時頃の終了を見込んでおります。

それでは、本日の研究会の開催に当たりまして、初めに、研究開発推進センターのセンター長で、また神道宗教会の研究委員長でもあります、松本久史先生に御挨拶をいただきたいと思ひます。松本先生、お願いいたします。

【松本】 皆様、こんにちは。挨拶は短いほうがよろしいと思ひますので、手短にいたします。

この会は、形式的なところといたしましては、研究開発推進センターの令和五年度第二回センター研究会、また神道宗教学会の第四回研究例会という位置づけで、合同開催という形で行わせていただきます。私は、研究開発推進センター長、そして神道宗教学会研究委員会の委員長という立場で、一言御挨拶を申し上げたいと思っています。

神道宗教学会でも昨年末、第七十七回の学術大会を開催いたしましたして、古代から中世の移行期、そこにおける様々な祭祀、儀礼という問題について、幅広い議論、討議というのをいたしたところでございます。今回は、同じく古代から中世にかけての、いわゆる神祇信仰の中核とも言うべき神宮に焦点を当てるということ、それについては、学術的に大きな意義というところ、これは学会という立場からして、そういうことが言えるかと思っています。

そして、今日御参会のメンバーの方々、非常に若手の方々を中心といたしておりますけれども、これも組織的な話を申しますと、國學院大學と皇學館大学が大学間で教育・学術研究交流に関する包括的な協定を結んでおります。その中で、人的な交流も含めてですが、研究交流をしております。そして、その交流事業において、事業自体としては学術資料センター等で行われているわけですが、そういった成果発信のプラットフォームとしては、研究開発推進センターがお役を務めるという形で、今日こういう形になりました。

ですから、そういった意味でも、國學院、皇學館、若手を中心として新しい神道研究の息吹というものを、今回非常にきちつと資料に基づいて議論されると思われまので、皆様方、本当に楽しみにしていただきたいと思います。

十七時まで若干長丁場ですが、最後までお付き合いいただければと思います。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

【木村】 松本先生、どうもありがとうございました。

それでは早速、最初の御発題をいただきたいと思います。お一人目は、先ほども紹介しましたが、皇學館大学研究

開発推進センター神道研究所の准教授でありまして、また、本学研究開発推進機構の共同研究員も務めていただいております塩川哲朗先生です。塩川先生には、「神宮に関する由緒の変化とその背景」と題しまして、お話をいただきたいと思います。

それでは、塩川先生、よろしくお願いします。